

## 学会の初代代表・益川敏英先生の訃報に接して

2021年7月30日 細川孝（大学評価学会代表理事）

益川敏英先生の訃報（2021年7月23日にご逝去）に接しました。大学評価学会を代表して、謹んで哀悼の意を表します。

益川先生は2004年3月に設立された大学評価学会の代表をお務めいただきました。もうお一人の代表は田中昌人先生でした。田中先生は2005年11月18日にご逝去されていますので、初代の代表がお二人とも亡くなられたこととなります。

益川先生のご研究やご業績、そしてお人柄については広く知られていることと思いますので、ここでは大学評価学会との関わりについて紹介させていただきます。

学会の設立に向けて準備するなかで、代表をどなたにお願いするかということが話題になりました。準備段階から尽力いただいていた田中先生から、益川先生のお名前があがったと記憶しています。あわせて、設立大会の記念講演をお願いしようということになって、重本直利さんと一緒に益川先生の研究室を訪問させていただきました。

京都産業大学にあった益川先生の研究室に入ると、先生はパソコンでゲームに興じられておられました。以前に脳卒中を患われたとのことで、脳のトレーニングとのことでした。何を話したかは覚えていないのですが、代表のことも記念講演のことも快く引き受けてくださいました。

キャンパスプラザ京都で開催された設立大会については、「学会通信」第1号（2004年4月25日）の記述を引用させていただきます。

3月28日（日）、キャンパスプラザ京都で大学評価学会の設立大会が開催されました。当日は約120人の参加で、熱気に包まれた大会となりました。また、新聞社の記者も複数参加されており、新しい学会への関心の高さがうかがわれました。田中昌人設立準備委員会代表の挨拶に続いて、益川敏英氏（京都産業大学）が「21世紀の教育・研究と大学評価」と題して記念講演を行いました。その中で、益川氏は長期的な視点で評価することの重要性を強調されました。「基礎であればあるほど100年の単位でみてほしい」と述べ、具体的な例もあげながら、短期的な評価が持つ問題性を指摘し、大学本来の社会に貢献する役割が失われてしまうことに対する危惧を表明しました。

（以下、省略）

益川先生が本学会に関わられた期間は僅かでしたが、記念講演でお話しされた内容は、その後の学会の指針として生かされたと思っています（設立大会の記録は、シリーズ本第1巻『21世紀の教育・研究と大学評価』をご参照ください）。

先生は2008年に、ノーベル物理学賞を受賞されました。近年では、軍事研究に反対する論陣を張っておられました。益川先生が科学者として真理を探究するとともに、平和な社会の実現に向けて活動され続けてきたことに改めて敬意を表するものです。

大学評価学会の活動も益川敏英先生の遺志を受け継いで、大学本来の社会に貢献する役割を発揮できるような大学評価論の創造に取り組んでいく決意です。

注) 大学評価学会の設立時は、現在の理事は運営委員という呼称でした。代表は現在の代表理事にあたります。